

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業「市民の学習成果の発表の場提供事業」

「^{まきむく}纏向・邪馬台国」について考える」を開催しました

平成22年7月15日から29日までの期間、3回にわたって、富川 光雄さんを講師にお迎えしました。



3回それぞれのテーマは、

「倭国大乱 単一民族論と基幹二民族論——環壕集落の東漸・神武の東征」

「邪馬台国連合 「協定」と「連合」の時代——吉備・出雲そして邪馬台国」

「卑弥呼」＝「天照大神」&「崇神天皇」 「天の岩戸」と「巨大古墳」（箸墓）

伊勢神宮 齋宮制について など」でした。



邪馬台国について、どこにあったかという所在地をめぐる論争が多い中、富川さんは、“民族”同士の出会い（戦いと協定）の場であったという観点から、日本人のルーツについて独自の持論を展開されました。

卑弥呼と天照大神、崇神天皇の三者は同一人物ではないか？邪馬台国でも、明治維新のような改革があったのではないか？

ロマンは尽きないようです。

本編のお話の前には、富川さんが実際に訪れた遺跡や古墳等の貴重な写真とエピソードもご披露いただき、受講生のみなさんは、和やかに聞き入っていました。

歴史講座は大変人気が高く、毎回多くのご参加をいただきました。

